



立花北小コミュニティスクールがスタート



昨年末、立花北小にコミュニティースクール（たちきた子ども応援ネット）が立ち上がりました。学校と地域、家庭、そして児童ホームがつながり合って立北の子どもたちを見守っていかうという仕組みです。さっそく1月には「1.17 防災教育の語り部」として、また、2月には「生活科の昔遊び体験のゲストティーチャー」として、地域の皆さまのご協力をいただき、子どもたちは大喜びでした。本校の地域には、子どもたちを大切にしてくださる心強いサポーターが沢山おられます。これからも、学校と保護者、そして地域の皆様のつながりづくりを進め、立花北小学校の子どもたちの健全育成に向けた取組を進めてまいりたいと思います。

6年生から受け継がれる立北のバトン

小学校の最高学年は『学校の顔』と呼ばれます。先月、5年生が、美方高原とちのき村へ4泊5日の自然学校に出かけました。



雪深い中での活動は大変ではありましたが、「挑戦」と「協力」の大切さを学び、ひと回り大きく成長して帰ってきました。『学校の顔』になる修行として、実り豊かな5日間でした。



先週行われた児童集会では、児童会役員の「引継ぎ式」が行われました。4、5年生の新役員たちが、旧役員から児童会旗をしっかりと受け取りました。全校生を前に抱負を堂々と話す新役員たちは、とても頼もしかったです。一年間しっかり頑張ってくれた旧児童会役員の人たちに、みんなで大きな拍手をおくりました。

今、卒業を前にした6年生を順番に校長室へ招き、一緒に給食を食べています。

「自然学校のかまくらづくりがめっちゃしんどかった」「修学旅行の夜が楽しすぎた」「〇〇先生は怒らせるとヤバイ！」など、給食を食べながら、小学校生活



の思い出話を楽しく聴かせてくれます。思えば昨春、戸惑いながら入学してきた1年生が、今、小学校生活にもすっかり慣れて笑顔いっぱい過ごしているのも、6年生のおかげです。掃除を一緒に手伝ってくれたり、ペア学級で一緒にやさしく接してくれたりするみんなが大好きな6年生も、「送る会」が終わると、いよいよあと2週間で卒業です。在校生は、今のうちにしっかりと6年生の姿を目に焼き付けてほしいと思います。

学校生活というもの、山あり谷あり、笑顔もあれば涙もあり、様々なドラマがあります。それでも最後には「通ってよかった」「通わせてよかった」と笑顔で立花北小学校の門をくぐっていただきたいと願いながら、日々、教育活動を進めてきました。子どもたちの成長はまだまだ道半ばではありますが、まずはこの一年、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りまして、少し早めではございますが、心より感謝申し上げます。